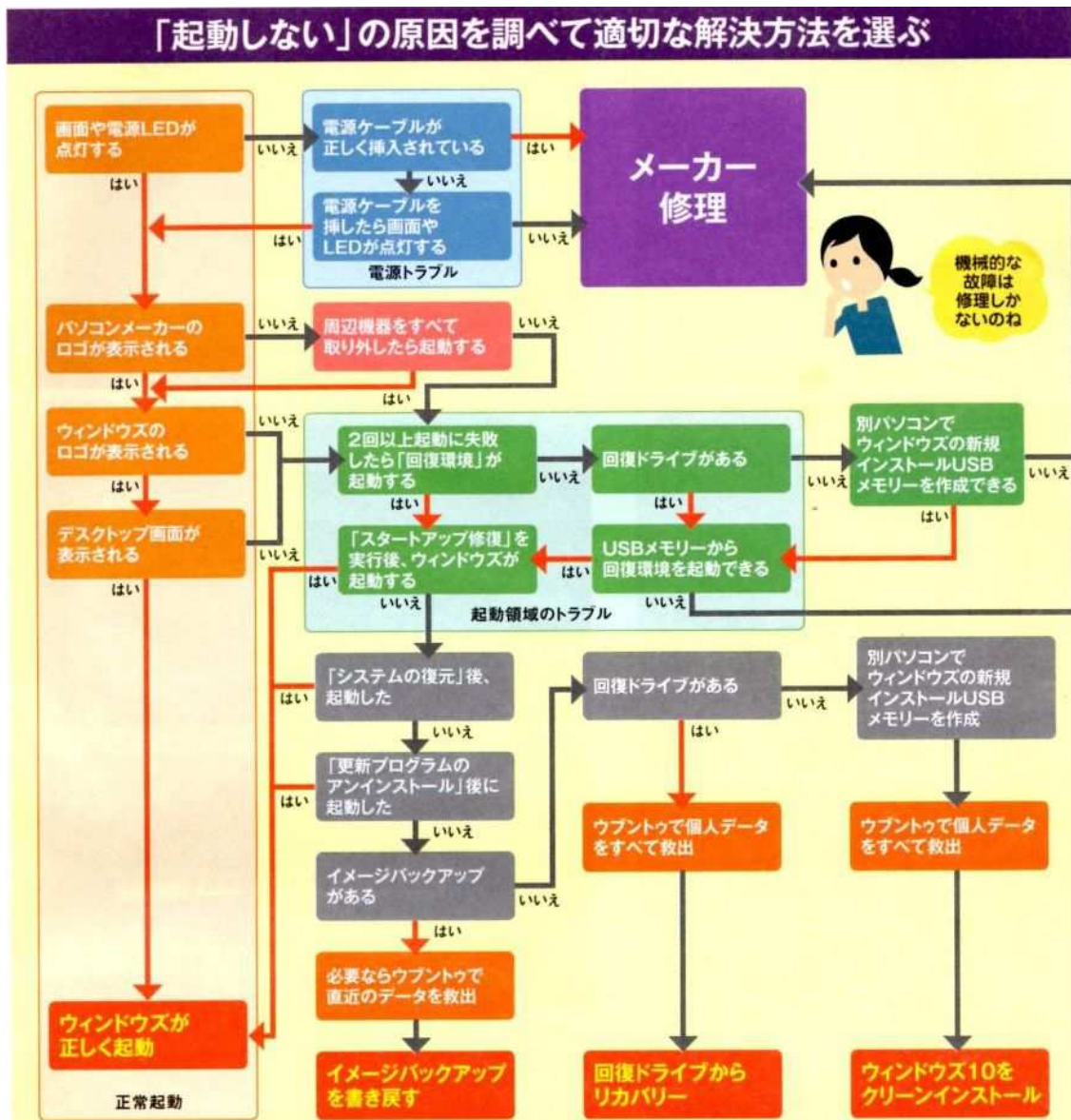


## パソコンが突然起動不能

JJ1SXA/池

パソコンがある日突然起動不能に！、一瞬パニック状態、私だけで無く、初心者なら誰でもそうだろう、だが、慌てず、一呼吸して、落ち着いたところで、具体的にどんな状態かを確認しよう、次のチャートが役立つでしょう。

原因により、適切な対応をすれば、うまく解決できる場合がある。



電源ケーブルやノートパソコンならバッテリー残量などの単純ミスを真っ先に疑う、電源ボタンを長押しして状況が変わるかも試して見る、それでも画面や、電源のLEDが点灯しなければ、ハード的な故障の可能性が高く、そうなると、お手上げなので、メーカー修理に出すしか無い。(その場合、個人データは保証されない)

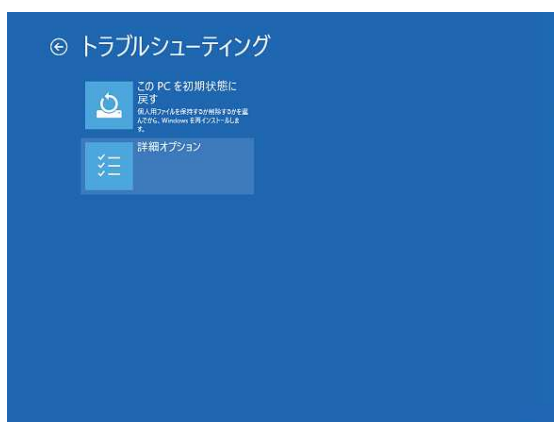
電源は入るが、途中で止まるという場合、周辺機器をすべて取り外して、起動を試みる、USB機器などが起動を妨げていることあるからだ。

途中で英語のメッセージが出たまま止まる、ウィンドウズのロゴから先へ進まない、デスクトップ画面が開くとフリーズする、といったケースがこれに該当する。

それでも駄目なら、ウィンドウズのシステムファイルが何らかの原因で壊れている可能性が高い、いわば、ソフト的な障害だ、こちらは、ウィンドウズが備えている「回復環境」で修復できることがある。

### 「回復環境」で修復

ウィンドウズは2回以上起動に失敗すると、回復環境と呼ばれる起動プログラムを自動起動する。

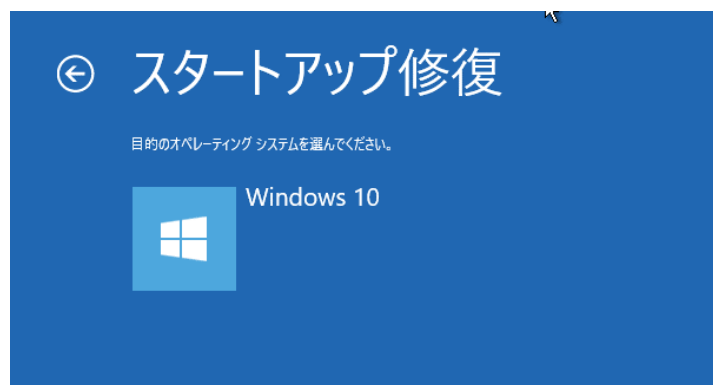


オプションの選択で、トラブルシューティングを選択、詳細オプションを開くと、下図のような起動に関するさまざまな修復作業を実行できる。

トラブルシューティングで、PC を初期状態に戻したい場合は、「詳細オプション」の選択では無く、「この PC を初期状態に戻す」を選択します。



回復環境で真っ先に実行すべきは、「スタートアップ修復」だ、システムファイルがチェックされ、必要なら自動修復される、



ここでは、当然、ウィンドウズ10を指定し、スタートアップ修復の実行中は、診断と修復が終わるまでじっと待つ、問題が修復されたら、ウィンドウズが再起動し、修復ができなかった場合は回復環境に戻る。

スタートアップ修復で駄目だった場合は、システムの復元を試みる、これは、ドライバーソフトやアプリの更新といったタイミングの他、1週間に1回定期的に作られる「復元ポイント」を使ってOSを修復する機能だ、復元ポイントが作ってある場合は、正常時のものを選んで実行する。

個人データは残るが、直近にインストールしたアプリやドライバーソフトは影響を受けるので、実行前に何が消えるかを確認しておく。

ウィンドウズアップデートの不具合が原因の起動障害もごくまれに発生する、その疑いが濃厚なら、回復環境から更新プログラムをアンインストールして見る。

回復環境で問題が解決しなかった場合は、リカバリーしか手が無い、方法としては、「イメージバックアップの復元」、「回復ドライブからのリカバリー」、「クリーンインストール」だ。

「回復ドライブからのリカバリー」と「クリーンインストール」は、個人データが消えるので、ファイル履歴やウブントウによるデータのバックアップもしくは救出と組み合わせる必要がある。

PCの正常時に作成したイメージバックアップを書き戻すのが手っ取り早い、イメージバックアップを保存した外付けHDDを接続し、回復環境の詳細オプションから「イメージでシステムを回復」を選ぶ。

イメージバックアップの作成は、PCの正常時に、イメージバックアップを保存する外付けHDDを接続し、スタートメニューから「Windowsシステムツール」にある「コントロールパネル」を開き、「システムとセキュリティ」の「バックアップと復元 (Windows7)」を選び左側で「システムイメージの作成」をクリック。

次は、「回復ドライブ」からのリカバリーだ、「回復ドライブ」は、PCの正常時に作る、作成方法は、タスクバーの検索欄に「回復ドライブの作成」と入力すると、設定の「回復ドライブの作成」が見つかるので、それを選び、「システムファイルを回復ドライブにバックアップする」にチェックを入れる、当然この作業前に、関係の無いUSBやSSDは全て外しておく、チェックを入れたら、「次へ」を押す、「USBフラッシュドライブの接続」画面が表示されたら、必要なUSBメモリーの容量を確認し、条件を満たすUSBメモリーを用意。

用意したUSBメモリーを挿すと画面が切り替わり、「使用可能なドライブ」として表示される、問題が無ければ「次へ」を押し、確認画面で「作成」を押すと作成作業が始まる。

これで備えあれば憂い無しのようなだが、まだ足りない、ついでに「インストールUSBメモリー」も作成しよう、インストールUSBメモリーの作成は、Windows 10のダウンロード (Microsoft) サイト (<https://www.microsoft.com/ja-jp/software-download/windows10>) を開き、「ツールをいますぐダウンロード」をクリック、次の「適用されるライセンス条項」の画面で「同意する(A)」ボタンをクリック、次画面で「別のPCのインストールメディアを作成する (USBフラッシュドライブ、DVD、またはISOファイル)」を選択、「次へ(N)」をクリック、次画面で、このPCにおすすめのチェックを外し、アーキテクチャ(32ビット、64ビット、両方のいずれか)を選択、次画面で、「USBフラッシュドライブ」を選択、「次へ(N)」をクリック、USBメモリーを挿し次画面で、「ドライブの一覧を更新する」をクリック、次画面で、リムーバブルドライブで作成先のUSBメモリーを選択、「次へ(N)」をクリック、次画面は、「Windows10をダウンロードしています」と表示され、完了すると、次画面は「USBフラッシュドライブの準備ができました」と表示され、エクスプローラから開けます。

パソコンの内蔵ドライブには、大切な個人データが入っている、ファイル履歴やイメージバックアップが取ってあれば、いきなりリカバリーしても、個人データが復元できるが、それが無い場合、パソコンが起動不能になると通常の手段では個人データを救えない。

そこで役立つのが、USBメモリーから起動できる無料OSの「ウブントゥ」だ、ソフト的な障害でウィンドウズが起動不能になっても、USBメモリーからウブントゥを起動して、個人データを外付けHDDなどにコピーできる。

これは、ファイル履歴やイメージバックアップがある場合でも有効、最後のバックアップ以降に作成・更新された直近の個人データも救えるからだ。

ただし、メイン基板や、電源回路などのハード的な損傷が起動不能の原因だった場合は、ウブントゥも起動できない、その場合は、パソコンから内蔵ドライブを取り外して外付けケースに入れ、別パソコンにつなぐしか無い。

ウブントゥの起動USBメモリーの作成方法は、容量4ギガ以上のUSBメモリーを用意し、正常に動作するパソコン(どのパソコン)でも良い。

ウブントゥのダウンロードサイト(<https://www.ubuntulinux.jp/>)から、ウブントゥのISOファイルをダウンロードする、複数のバージョンが配布されているが、LTS(ロングタイムサポート)trueという安定版が良いようだ。

ダウンロードしたISOファイルをそのままUSBメモリーにコピーしても起動はできない、「ルーファス(Rufus…<https://rufus.ie/>)」というフリーソフトを使ってUSBメモリーに書き込む、「ウブントゥのISOファイル」というフリーソフトを選択すると、ウブントゥに適した書き込み設定が自動で適用される。

ウィンドウズが起動しないパソコンに、ウブントゥの起動USBメモリーを指して電源を入れると、ウブントゥが起動する、起動しない場合はパソコンの起動メニューを開き、USBメモリーからの起動を指定する。

最初に起動方法を尋ねられるので、「インストールせずにウブントゥを試す」という項目を選ぶ、起動するとウブントゥのデスクトップ画面が開く、ウィンドウズと見た目は異なるが、マウスの左クリックで選択、右クリックでメニュー表示などの基本操作はほぼ同じだ。

個人データの救出は、ウィンドウズの「エクスプローラ」に相当する「ファイル」アプリで行う、パソコンに外付けHDDやUSBメモリー(起動用とは別の物)を接続すると、デスクトップ画面にアイコンが表示される、それを開くと「ファイル」アプリが起動してファイルを操作できる。

パソコンの内蔵ドライブは、「ウブントゥドック」と呼ばれる画面左側のランチャーから「ファイル」をクリック、メニューから「他の場所」を選び、一覧からウィンドウズのCドライブを選択すると中身を表示できる、その中の「Users」フォルダーを、バックアップ先の外付けHDDやUSBメモリーにドラッグしてコピー、これで救出完了だ。

以上色々トライしたが、回復環境も開けず、回復ドライブも手元に無い、万策尽きたと諦めるのは早い、「クリーンインストール」という最終解決策が残されている。

作っておいた、或いは別のパソコンでウィンドウズ10のインストールUSBメモリー作成し、それで起動すれば、回復環境による修復やリカバリー(初期化)ができる、回復ドライブか

らの起動との違いは、まっさらなウィンドウズ10がインストールされることだ、必要なドライバーソフトやアプリは、後で自分で組み込まなければいけない。

ウィンドウズのライセンスはパソコンに関連付けられているため、インストールにライセンスキーは不要だ。

## 参考

パソコンの起動メニューの表示方法は機種によって異なる

ダイナブック:「F12」キー

NEC:「F7」キー

富士通 ;「F11」キーまたは「F12」キー、サポートボタン

デル:「F12」キー

日本HP:「F9」キー

レノボ・ジャパン:「F12」キー

エーサー:「F12」キー

マウスコンピューター:「F7」キー, 「F11」キー, 「F12」キーのいずれか

パナソニック:「Esc」キー、(BIOS画面で「Boot Popup Menu」の有効設定が必要)

この記事は、間違いの無いように書いたつもりですが、あくまでも「つもり」です、この記事을参考にして作業をする際は、自己責任でお願いします。